

多機能型浮魚礁の開発と国直轄整備の制度化

【浮魚礁の目的・概要】

- ・かつお、まぐろ等の高度回遊性魚類は、滞留性が乏しく、漁場形成が不安定
- ・かつお、まぐろ等の回遊経路となる黒潮のルートに表層型浮魚礁を整備することで効率的な操業が可能

【浮魚礁の事業効果】

- かつおの安定的な供給
浮魚礁周辺でのかつおの漁獲割合は高知沿岸全体の80%以上
- 操業経費の節減
漁場の探索時間短縮に伴う、燃油経費の節減
- 鮮度の向上
操業時間縮減により新鮮なかつおの水揚げが可能

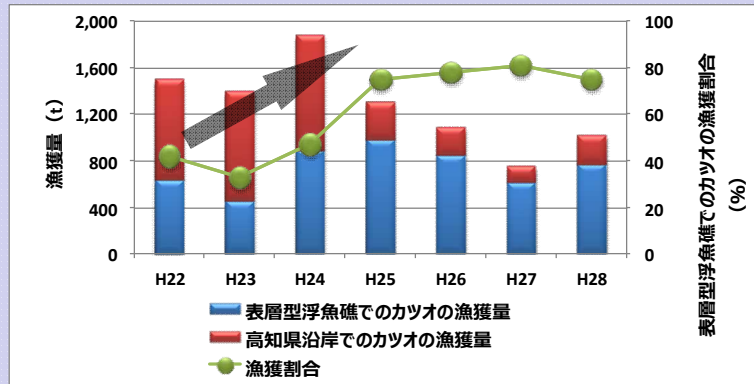
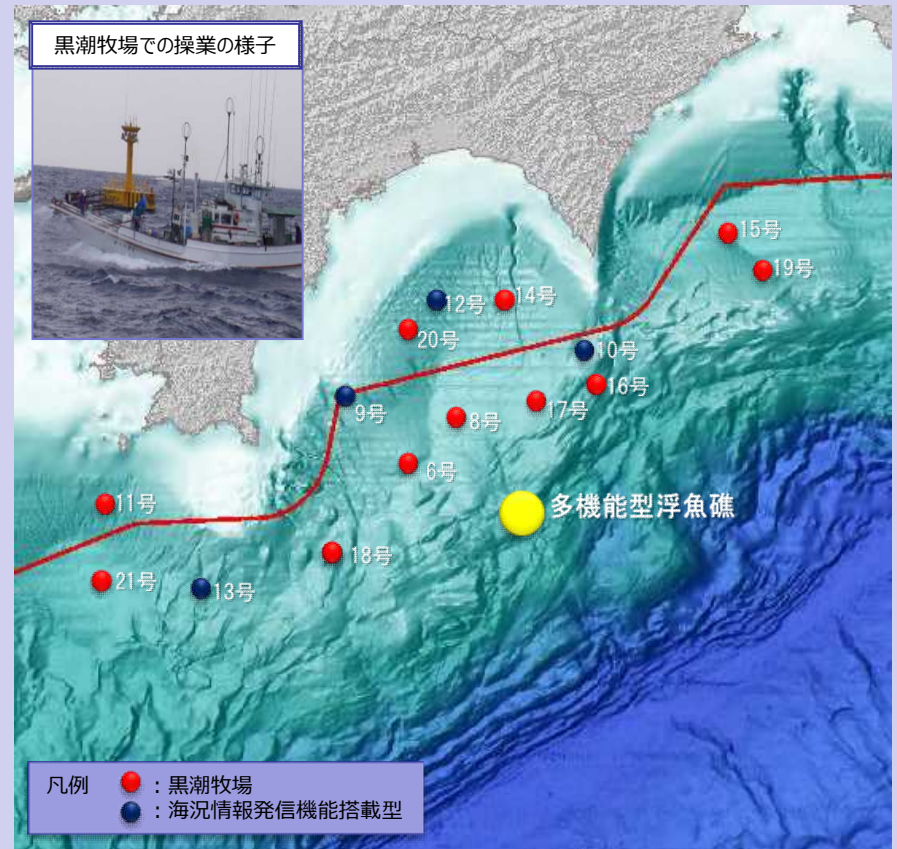


図1 高知県の浮魚礁周辺におけるかつおの漁獲量の推移

かつおの漁場形成の悪化に伴い、浮魚礁周辺における漁獲割合が増加
↓
浮魚礁（黒潮牧場）の重要性が増加
↓
当県海域でフロンティア漁場整備事業の目的である資源の回復と生産量の増大を図るためには、増殖機能等を付加した浮魚礁の整備が不可欠

図2 黒潮牧場の設置位置と多機能型浮魚礁の設置想定位置



【多機能型浮魚礁の開発、設置について】

- 太平洋側の複数県での設置が可能
- 付加する機能が多岐に亘り、他分野での調整が必要
- 地震対策への活用等、公益性が高く全国的な視点が不可欠
- 大深度に多数の機器を搭載しての設置となるため開発、設置費用が多額



国レベルでの開発、設置が必要

政策提言

◎ 増殖・魚群探知等の機能を付加した多機能型浮魚礁の開発と国直轄による整備の制度化